

学生提案成果報告⑧

栃木県東部の隠れた魅力を引き出そう

—子ども視点で地域活性化を—

宇都宮共和大学シティライフ学部 2年西山ゼミ 福田珠花（ふくだ みか）
石川裕也 大久保友翔 重松咲来 関口夏鶴 高橋翔太 野村陸 塙夏唯斗 福田哲士

【概要】この活動は、高齢化や人口減少が進む栃木県東部で、未来を担う子どもたちに向けた新たなまちづくりを行うものである。私たちは、さくら市や那珂川町での活動を通して、子どもたちがより輝ける環境をつくりたいと考えた。そこで、地域に密着した活動を行う個人や団体と連携し、映画の上映会や子どもたちと巡るバスツアー、さらには来年度子どもが魅力を感じる観光スポット、アクティビティのガイドブックを那珂川町を事例に作成する予定である。

【栃木を元気にするには】私たちは、行政やまちづくり団体、民間事業者、地域の子どものたちなどと連携し、様々な活動を行ってきた。宇都宮市から始まった私たちの活動は、栃木県東部へと広がり、子ども視点での地域活性化に向けて動き出した。子どもに視点を置いた本事業が進展し、子どもが増加すれば、少子高齢化が進む当地域のみならず、栃木県全体も元気になると考える。

1. 活動の背景

栃木県東部は、県内でも特に高齢化が進む地域である。2015年国勢調査では、茂木町の高齢化率は37.1%と非常に高く、さくら市や那珂川町においても高齢化は大きな問題となっている。そこで私たちは、長期にわたる地域発展を目指し、子どもたちにとって魅力あるまちづくりを提案する。これを実現させるために、まずは私たち自身がフィールドに出向き、地域の方と積極的に関わる。そして、その地域にすでに存在する魅力ある資源を最大限に生かした地域活性化を行うことが重要である。

2. 活動の目的

この活動は、2年計画である。1年目である今年度は、活動拠点となる地域とのネットワークづくりや地域資源の発掘を中心に行った。また、来年度に向け、地域の未来を担う子どもたちとの交流や子どもたちに向けたイベントなどを積極的に行った。今後の活動としては、まんまとちぎで行う大自然の中での映画上映会などがある。その様子は、発表時に報告する。来年度の予定としては、今年度得られた成果をもとに子ども向けの観光パンフレットを制作する。また、その事前準備として、さくら市の子どもたちを対象とした、地域の魅力発見バスツアーを行う予定である。子どもたちが集まる地域になれば、子育て世代が増加する。そして、それが何年何十年と続いていけば、幅広い世代が住める地域に発展すると確信している。

3. 栃木県東部の魅力を引き出すための主な活動

私たちは、2021年4月より活動を始め、7月から本格的に県東部での活動を開始した。私たちが活動する上で、最も重要視する点は、「地域に寄り添った活動であるか」である。これを実現するべく、私たちは、積極的に地域の方とコミュニケーションを取り、様々な活動を行った。

(1) まんま とちぎでの活動

まんまとちぎは、フィオーレ喜連川という温泉付きの住宅地にあるNPO法人ポン・テが運営する小さな八百屋であり、この地域に住むお年寄りや主婦、子どもたちなど幅広い世代の生活を支えている。私たちは、コロナ禍でイベントの中止が相次ぎ、思うような学校生活を送れていない子どもたちに目を向け、8月23日に流しそうめんや竹の器づくりなどを行う夏祭りを企画した（写真1）。なお、当イ

表 1 田川活性化プロジェクトの事業（計画を含む）

月	事業名	連携・関連団体・企業
4	ユースサポーターズネットワークでの意見交換、まち歩き	NPO法人とちぎユースサポーターズネットワーク
5	地域活性化や自治会のあり方についての意見交換	宇都宮市みんなでまちづくり課
	ボランティアへの参加促進についての意見交換	宇都宮市まちづくりセンター”まちびあ”
6	宇都宮駅東口のまち歩き	NPO法人とちぎユースサポーターズネットワーク、NPO法人キーデザイン
7	自然食品販売店「まんまとちぎ」での代表・大河原氏との意見交換	NPO法人ポン・テ
	農家民泊「菜花の庄」での民泊体験と店主・庄山氏との意見交換、那珂川町の視察	菜花の庄
8	大谷地区における竹伐採作業（大谷地区における竹害対策と竹材の確保）を2回実施	大谷石材協同組合
	那珂川町での小学校跡地活用のワークショップ	那珂川町産業振興課
	自然食品販売店「まんまとちぎ」での夏祭り（中止）	NPO法人ポン・テ
10	子どものための「森の映画上映会」実施	NPO法人ポン・テ
11	子どものための「栃木県東部モニターツアー」の企画開始	検討中
3	子どものための「栃木県東部モニターツアー」実施	検討中



写真1 流し素麺用の竹の伐採と加工



写真2 子どもたちとの交流



写真3 那珂川町でのワークショップ

イベントは緊急事態宣言によって中止となった。また、私たちは何度も現地を訪れ、子どもたちと交流し関係性を築いてきた（写真2）。10月23日（土）にプロジェクト第一弾となるイベント「森の映画上映会」を開催する。まず、木と木にロープを張り、そこに布を垂らしスクリーンにする。スクリーンにプロジェクターで映画を投影する。緩い傾斜地になっていることから、観客席にはエアーマット（大学から25台貸与を受ける）を敷き、寝ながら映画を鑑賞できるようにする。今後は、竹あかりの制作ワークショップを開き、子どもたちにマイルミネーションを制作してもらい、飾るなどのイベントを仕掛けていきたい。また、11月から当地区の子どもを対象にしたモニターツアー（3月実施予定）の企画を開始する予定である。

（2）菜花の庄での活動

菜花の庄は、那珂川町の農園民泊である。店主の庄山氏は、東京出身で退職後、古民家を購入・改修し、無農薬農業を行いながら民泊を運営している。私たちは、7月に当施設の宿泊や、里山でのバーベキュー、無農薬の米づくりの見学、那珂川町の観光資源の視察などを行った。8月25日には那珂川町で行われた「廃校活用」のワークショップに参加（写真3）するなど、菜花の庄を拠点とした那珂川町とその周辺エリアにおけるアクティビティや観光資源の開発を目指している。今後は、まんまとちぎの事業で計画しているモニターツアーにおいて当事業を組み合わせられないか模索している。

4. 子どもに魅力的な地域づくりの可能性

これまでの地域づくりは、大人目線の大人が魅力を感じる、すなわち大人主導で進められてきた。子どもは大人が何もないと感じていることにも、興味をもち創意工夫して楽しむ能力がある。それを活かせるのは、「大人が何もない」と考える農山村地域である。こうした子どもが魅力的に感じる地域、子どもが楽しめる地域を軸にまちづくりを進めることが、少子高齢化にあえぐ農山村地域発展のカギになると考える。これまでの経験を活かし、次年度は子ども対象のツアーの開発（えにしトラベル等とのコラボ）や子ども観光パンフレットの作成など、子どものための具体的活動を行っていきたい。